

徹底
分析

試行調査から予測する 大学入学共通テスト

現在の大学入試センター試験に代わり、2021年1月から大学入学共通テストが実施されます（以下共通テスト）。
第二回となる試行調査が2018年11月に行われ、配点も初公開されました。
試行調査段階ですが、リスニングがリーディングと同じ100点満点になっており、「バランスの取れた指導・学習をすべし」という国のメッセージがうかがえます。
今回は試行調査を分析し、今後求められる力とその対策を考えます。

リーディング

【問題構成】 (100点満点 80分)

大問	小問	内容	マーク数	配点	CEFRレベル
1	A	伝言メモの読解	2	4	A1
	B	予定表を含んだ告知記事の読解	3	6	A2
2	A	ネット上の料理レシピおよびコメントの読解	5	10	A1
	B	学校での携帯電話使用の是非に関する記事およびコメントの読解	5	10	A2
3	A	イラスト付きブログの読解	2	4	A1
	B	異文化体験に関する雑誌記事の読解	3	6	A2
4		読書習慣に関する複数の記事の読解 ※一部グラフ含む	5	16	B1
5		歴史上の人物に関する記事の読解	8	20	B1
6	A	アジアの女性パイロットに関する記事の読解	4	12	B1
	B	アメリカ国立公園の環境問題に関する記事の読解 ※図表読み取り含む	4	12	B1

リスニング

【問題構成】 (100点満点 30分)

大問	小問	内容	マーク数	配点	CEFRレベル	放送回数
1	A	日常生活における短い発話の内容理解	4	12	A1	2
	B	日常生活における短い説明文に一致するイラストの選択	3	12	A1~A2	2
2		日常生活における2者の対話文に一致するイラストの選択	4	12	A1~A2	2
3		日常生活における2者の対話文に一致する内容の選択	4	16	A1~A2	2
4	A	日常生活における物語や説明文の内容理解 ※イラストや図表の読み取りを含む	8	8	A2~B1	1
	B	4人の説明を聞き、条件に合う内容の選択	1	4	B1	1
5		社会問題に関する講義の内容理解 ※ワークシート上の表の読み取り含む	9	20	B1	1
6	A	社会問題に関する2者の議論に関する内容理解	2	8	B1	1
	B	社会問題に関する講義に関して4者のやり取りの内容理解 ※図表読み取り含む	2	8	B1	1

センター試験からの変化は？

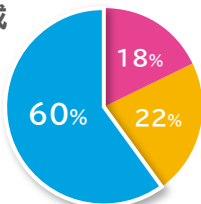
- ・総単語数が約4200語→約5400語にアップ
- ・発音、文法、語法問題がなくなり、すべて長文読解に
- ・設問がすべて英語
- ・日本語注釈が存在しない
- ・答えが1つとは限らない問題が出題

- ・読み上げが1分間に120語→140語にアップ
- ・読み上げ1回のパターンも出題
- ・話者数が増加（センター試験は最大3人）
- ・答えが1つとは限らない問題が出題
- ・アメリカ英語だけでなくイギリス英語や非母国語話者の英語も混じる

英検2級以上の問題が6割を占める！

セファール
CEFRレベルでの配点構成

- A1 (英検5級～3級)
- A2 (英検準2級～2級)
- B1 (英検2級～準1級)

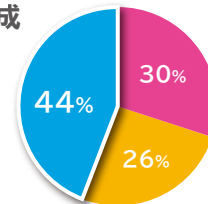


センター試験と同じ試験時間ですが、語数が1.3倍になり、かつすべて長文読解なので、今まで以上に速読力が求められます。選択肢には文章と同じ表現が使われておらず、全体の文脈や内容を把握し、それらを自分でしっかり整理できる力が重要となります。

1回で把握するリスニング力と集中力が必要！

セファール
CEFRレベルでの配点構成

- A1 (英検5級～3級)
- A2 (英検準2級～2級)
- B1 (英検2級～準1級)



センター試験と比べて読み上げスピードが速くなっているのに加え、問題数の半分以上が英語の読み上げ1回だけとなっています。問題も、聞き取った英文をもとに整理・判断する必要のあるものばかりなので、全体の文脈・内容を1回で理解できる集中力が重要です。

総評

リーディング・リスニングともに情報化社会という時代背景から、**大量かつ多様な情報を速く正確に処理する力に重きを置かれています**。身近なものをテーマに、ディベートやプレゼンの準備を想定した出題をするなど、「**实际的・実用的**」な設定も目立ちます。また、「**思考力・判断力・表現力**」を測るべく複数の情報を照らし合わせる問題も増え、正解が1つだけでない問題も含まれています。これらは新しい学習指導要領を反映した内容と言えるでしょう。

対策としては、**普段から「読む」「聞く」とともに多様な英文に触れておき、どんな出題をされても動じないことが大切です**。AIや男女の雇用に関するものなど昨今の社会問題も扱われるので、時事情報にアンテナを張っておくこともポイントとなります。英検2級以上の難易度の問題が全体の半分以上を超えており、日本の**高校卒業時の英検準二級取得率が2018年3月時点で39.3%**ということから考えても、**早期から訓練を重ねておく必要があります**。

～参考情報～

新学習指導要領による高校英語の変化

▼ 高校生

- ・授業は「**英語で行うこと**」が基本に
- ・「**論理・表現**」の科目が追加
(プレゼン、ディベート、ディスカッションなど)
- ・身近な話題について**情報交換、表現ができる能力**を養う
- ・**CEFRレベルB1～B2**(英検2級～準1級)の力が求められる

高校入試でもすでに変化が!

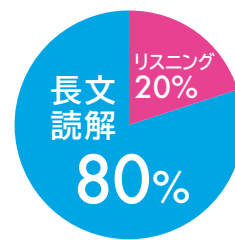
試行調査の特徴は高校入試でも見受けられます。例えば東京都立入試では8割が長文読解となっています。また、大阪府立入試のC問題では設問も英語だったり、「読む」「聞く」「書く」を同時に測る複合問題が出題されています。その他、思考力を問う英作文の配点が年々高まっていたり、正解の選択肢がひとつでないものも含まれるなど、地域によって特徴は様々ながら、変化はすでに始まっているのです。

必修単語数

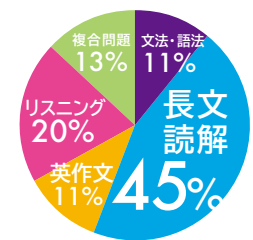


配点構成

[東京]



[大阪(C)]



まとめ

- ・知識を使いこなすのは大前提。さらに処理能力を求める内容に大幅シフト
- ・英検2級合格レベルの実力が必須
- ・現行の学習指導要領で共通テストを受けるのは現中1～高1
- ・「読む」「聞く」とともに日頃から多種多様な英語に触れておくことが重要

Point

現中1～高1は新学習指導要領を意識し、習慣的に英語に触れる必要あり!